

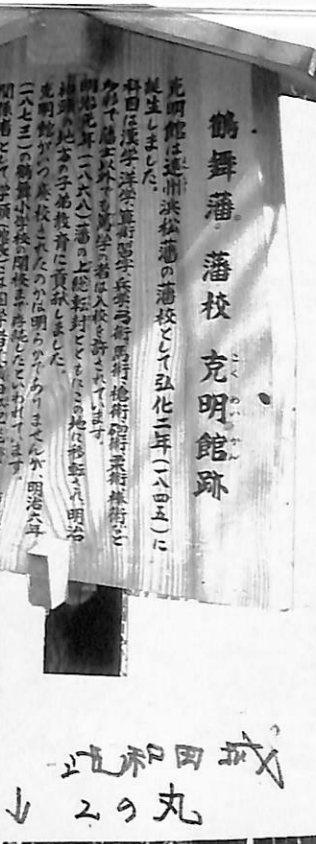
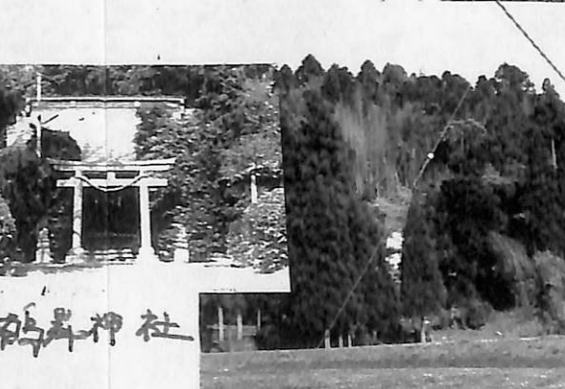
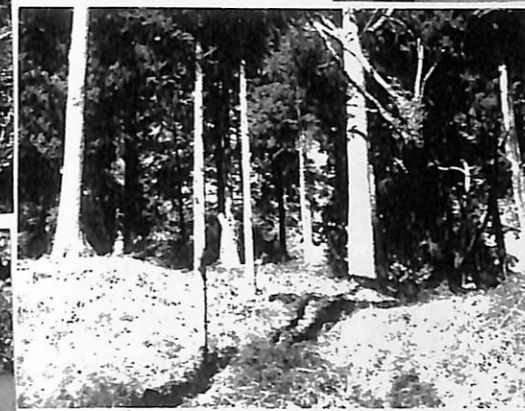
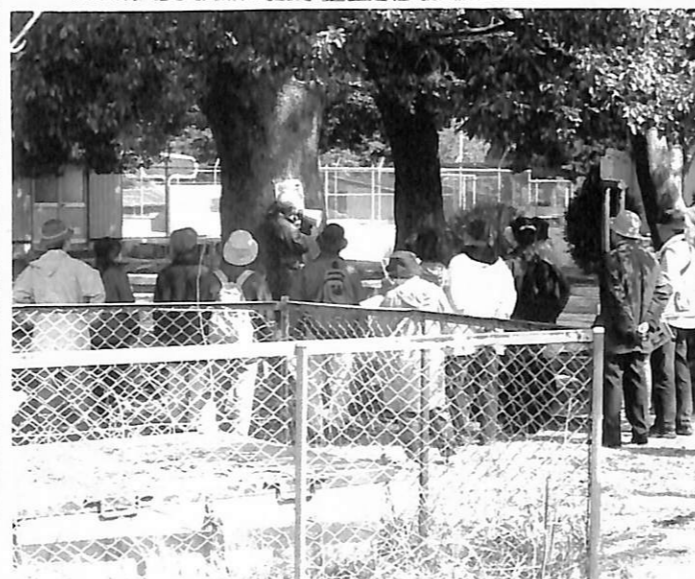
第23回「鶴舞城と池和田城を歩く」 予告編

往路=八幡宿9時14分、五井17分着、22分(小湊鉄道)牛久49分着(乗換え時間少ない)53分(バス15分)鶴舞公民館下車  
復路=鶴舞駅解散16時14分乗車、五井駅16時49分着

主なコースとみどころ 乗車券=小湊五井-牛久往復(ホームか車内で)

- ①鶴舞城(鶴舞藩庁)=明治元年、徳川宗家を継承した徳川家達の駿府移封にともない、浜松6万石の井上正直が市原に転封。江戸時代の市原は大半が旗本と幕府直轄領で土壌も豊だが大名の居城はない。正直は鶴舞の地を選んで城郭建設をすすめ、明治3年、御殿など一応の完成を待って入城。しかし、この間の版籍奉還で、城は藩庁、城主(殿様)は知事になり、翌明治4年、廃藩置県。城の建設は中止され、6年廃城。藩主御殿は鶴舞小学校として明治43年まで使用された。築城1年、未完成のままその使命を終えた幻の城。
- ②浜松井上家と最後の殿様・井上正直=徳川幕府創設期の功臣、井上正就の直系。正直は幕末2度老中に就任。維新の戦いは新政府に恭順、鶴舞知藩事をへて華族、次の正英が子爵に。
- ③藩校克明館跡=教育熱心な井上藩の藩士養成所。浜松で開校。朱子学+洋学を学び洋式兵制訓練も。敷地千5百、建坪6百坪。講堂、教場、演武場、寮。
- ④鶴舞神社=明治3年、浜松から移遷。鶴舞城の守神。手水石も浜松から。
- ⑤高台=眺望抜群。切り立つ断崖は自然の要害を感じさせる。周囲を土塁巡る。
- ⑥丸水濠=セキの内側に土塁を回して水濠として活用。変形T字形に広がる。
- ⑦本丸土塁=歪みをもった横矢掛かりで高さ4.8m、長さ100m。半分が現存。
- ⑧本丸碑と藩庁看板=鶴舞小学校の現存土塁に史跡看板。よくまとった説明。
- ⑨大井戸跡、椎の大木=当時のもの。井戸は現在でも水は枯れないという。
- ⑩本丸殿舎(藩庁と知事邸)跡=表、中奥、奥、庭園で構成。唐破風?大玄関に石畳、式台、大戸など。間取不詳で10室ほど。6万石城郭としては質素。
- ⑪搦手の守り=土塁が現存。空堀で囲む。堀切空堀、搦手門を推定。
- ⑫武家屋敷の郭=家臣7百、人口は3千。当初近隣の村々に分散、整地は本人で家作は官費。質素な藩士邸が立ち並んだ。春日井梅鶯の家。湯川家。
- ⑬久保田邸=鶴舞藩下級卒士現存屋敷(長屋?)。カヤ葺き15坪、土間と1室。
- ⑭大手天朝門跡=冠木門?に門番所。いまでも周辺を大手と呼ぶ。
- ⑮城下町=大手門から先は町家。1日にして完成した城下町も過疎化進む。
- ⑯家老伏谷如水邸跡=一時、正直の孫も居住。戦時下は首都防衛隊長官舎に。
- ⑰池和田城=中世里見方武田氏の支城で城主は多賀氏。平蔵川と沼地、絶壁に囲まれた要塞で曲輪、大堀切、土塁、空堀、物見などが精度よく残る。
- ⑱池和田の戦い=永禄7年、関東制覇をめざす里見氏が国府台に進出して小田原氏を迎え撃ったが大敗。池和田城は上総深く追撃した里見氏の猛攻撃を受けて落城、多賀蔵人以下多くの城兵が戦死。実際に戦った悲劇の城。
- ⑲本丸=鳥がはばたくような形。4千㎡。詰めの城。城主館、倉庫蔵など置く。側先端急崖の小郭は物見かのろし台か。最奥からの展望は抜群。
- ⑳天神社=多賀氏守り神。落城4百年現在に続く。
- ㉑2の丸=本丸崖下、北郭、南郭、要害の3区。竹林が密生している。
- ㉒要害=通称ユージュ。自然の地形を利用した谷地。誘いこんで討ち取る。
- ㉓内沼、外沼=タンボはかつて沼地。周囲に漆房、白の前、矢田の小字名も。
- ㉔光明寺=古色蒼然の名刹。伝出城。物見、土塁、空堀などの地形が。慶安2年、徳川家光から寺領15石の寄進状。中世石塔。旗本小倉吉次の墓。
- ㉕兜首=昭和19年、平蔵川近くの古松根に兜首。城主多賀蔵人?。
- ㉖姫塚=姫たちが落ち延びる途中、キビの風音を敵勢と勘違いして自害。
- ㉗鶴舞駅=大正後期、小湊鉄道開業当時の面影を残す。関東の駅百選に。

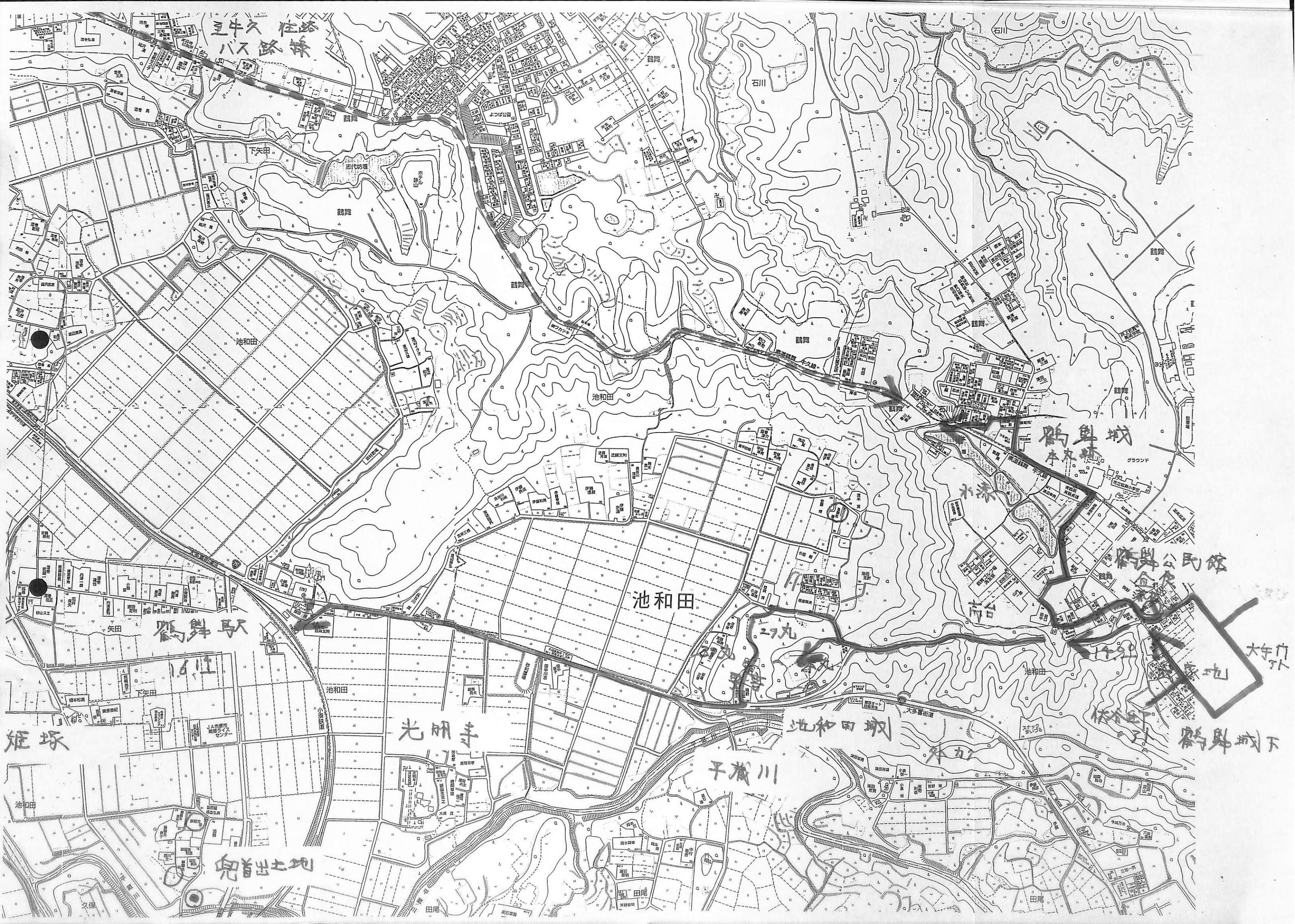
城と史跡を歩く会=0436-42-2237 山岸弘明



小湊鉄道鶴舞駅



←鶴舞城高台↑↑池和田城



近牛久往路  
バス路線

下矢田

池和田

池和田

池和田

鶴岡駅

1611

池和田

光琳寺

平蔵川

池和田城

外丸

鶴岡城  
本丸跡

鶴岡公民館

金庫

鶴岡城下

兜首出土地

大矢竹下

城と史跡を歩く会第23回 「鶴舞城と池和田城を歩く」 ご案内資料

<日時>	平成15年6月5日 (木曜日=予備日11日)
<主要行程>	八幡宿9時14分、五井17分着、22分 (小湊鉄道) 牛久49分着、53分 (乗り替え少ない、バス15分) 鶴舞公民館前 — 鶴舞公民館 (トイレ) — 藩校跡 — 本丸水濠 — 鶴舞藩庁跡 — 本丸土塁空堀 — 武家屋敷 — 大手門跡 — 公民館 (昼食) — 池和田城主郭 — 2の丸 — 要害 — 光明寺 — 鶴舞駅解散 16時14分、五井駅16時49分着、八幡宿17時ころ

山岸弘明

1) はじめに (地名のいわれ)

- ①鶴舞=江戸時代は石川村桐木台といわれた原野。井上藩の転封で一夜にして城下町に。地形が鶴に似た、鶴舞谷にちなんだとも。廃藩置県後過疎化がすすんだ。
- ②池和田=池の和田とも。沼池の中の田、地形をいっている。

2) 小湊線 (五井 — 上総牛久28分、バスは15分)

- ①内房線五井駅からいすみ鉄道上総中野駅間を結ぶ昔懐かしいローカル電車。編成は1~2両。田園風景をみながらの電車の旅が楽しい。
- ②牛久からのバス接続時間がありません。トイレはできれば鶴舞公民館で。

3) 鶴舞城 (鶴舞藩庁) の概要

①その歴史

明治元年、15代将軍慶喜を継承した徳川家達の駿府移封にともない、浜松6万石の井上正直が玉突きで市原に転封となった。江戸時代の市原は大半が旗本領と幕府直轄領で土壌も豊であったが大名の居城はない。正直は新政府から築城のための経費として3年間1,800両と玄米の支給を受けて鶴舞の地に城郭建設をすすめた。工事中の明治3年、御殿など一応の完成を待って入城。しかし翌4年廃藩置県となったので工事が中止され、6年廃城となった。藩主御殿 (知事邸) は鶴舞小学校校舎として明治43年まで使用された。地元古老らの伝承は残るが古写真も現存しない。築城わずか1年、未完成のままその使命を終えた幻の城であった。

②浜松井上家と鶴舞藩主井上正直

徳川幕府創設期の功臣で、00年の大河ドラマ『葵 徳川三代』でも活躍した井上正就の直系。最後の藩主正直は幕末2度老中に就任。維新の戦いは新政府に恭順、鶴舞知藩事をへて華族に列せられ、次の正英が子爵となった。

③まったくわからなかった幻の城

『市原市史』所載の「鶴舞城址の図」=現況とくらべ信頼性のないデタラメ図  
研究者も少なく城地の詳細は不明であった。

④明治15年迅速測図、迅速原図による城郭の解明 (山岸調べ)

最初の明治測量図を解析、現地確認の結果、かなり正確な城郭全体像がわかってきた。

⑤鶴舞城の概要

舌状台地先端に立地し、3面を急ガケに囲まれた天然の要害。前面に城下町と武家屋敷を開き、背面と東側の尾根を堀切って複数の外郭を設けた。  
主郭は本丸と2の丸 (仮称) の2郭 (3?)、武家地の郭、外郭、町屋 (城下) からなる。  
本丸はおおむね三角形で2面を水濠と土塁、1面は空堀?土塁で囲む。  
2の丸明治図に空堀?升形? (発掘しないと正確には分からない)  
武家屋敷郭と城下を大手門で区切り、武家屋敷郭は主要路に土塁をめぐらせた。  
建造物は本丸に藩主殿舎兼藩庁舎。城の象徴で浜松時代そびえた天守閣、櫓は未着手。  
当然、前任浜松城をイメージした6万石格の城作りをめざしたと考えられ、未完成のまま終わったことが惜まれる。



明治15年迅速測図

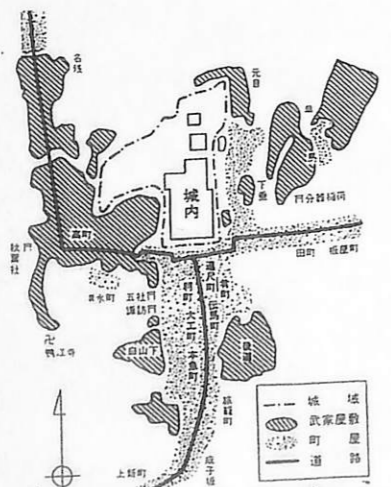
鶴舞城跡 (最初の実測図)



実測断面図



井上正直公



前任の浜松城下



浜松城 →

4) 落校克明館跡

- ①教育熱心で知られた井上藩の藩校。弘化2年浜松で開校。校名は「よく俊徳を明らかにする」から。
- ②敷地1,500坪、建坪600坪。講堂、斎堂、演武場、寮など。
- ③朱子学+洋学、洋式兵制訓練。8才で入学、士族以外の入学も認められた。明治5年廃校。鶴舞小学校に引き継がれた。
- ④市原市佐瀬(牛久駅近く)の鶴岡家に伝学問所長屋門。

5) 鶴舞神社

- ①明治3年建造。鶴舞城の守神。稲荷社、秋葉神社=井上家の信仰厚く、転封の都度新任地に祀る。
- ②藩士の名前を書いたノボリ。毎年の祭礼に旧藩士が集まって旧交を深めた。

6) 高台

- ①克明館一帯の平地は広い2の丸? 上級藩士邸街。土塁も散見できる。
- ②山内一郎さん宅=藩士子孫。邸地は昔のままだが建物は数次改築という。
- ③高台から城の立地が窺える。切り立つ断崖は自然の要害を感じさせる。眺望は抜群。土塁。土塁下に城を回る道路。領民は城を迂回した。

7) 本丸水濠 (セキ)

- ①江戸時代からあった農業用セキの内側に土塁を回して水濠として活用。変形T字形の接続部分は本丸前の空堀もかつて水濠を証明。少なくとも三角形の二面は水濠。
- ②昔はきれいで泳げたという。現在も池和田地区の農業用水として利用されている。

8) 本丸土塁と水濠跡

- ①本丸(北側)と2の丸(南側)を区切った土塁と堀跡。迅速原図付図(別図参照)
- ②土塁は歪みをもった横矢掛かりで長さおよそ100m、高さ4.8m。塀壁はなさそう。(未完?) 前面の堀は底面巾6.8m、深さ3.6m、舟型。
- ③鶴舞城本丸跡碑=本丸土塁上に立つ。鶴舞藩庁跡史蹟看板=よくまとまっているのでぜひ一読を。井戸跡、椎の大木=井上藩邸当時のもの。
- ④本丸殿舎(藩庁と知事邸)跡(鶴舞保育所=旧鶴舞小学校) 構成=政務公邸(表)と藩主私邸(中奥)、家族の居所(奥)、池泉をもつ庭園からなる。表=唐破風? 大玄関、間取不詳10室ほど。おそらく川越城本丸殿舎のような建造物と考えられる。小学校百年史に車寄せ? 石畳、けやきの一枚板を並べた板の間玄関(式台)、両隣はめ板に玉モク、

- 釘隠しギボシ、子供にあかない4枚の大戸、広間、大きなヤグラ太鼓などの記載がある。
- ⑤明治6年1月廃城令。県内では佐倉城をのぞくすべて廃城。城地は大蔵省所管と変わり、一部を競売、残りは撤去。競売で取得したとみられる鶴舞城遺跡が現存するが他城と比べ少ない。
- ⑥水濠側土塁=3分の1ほどがほぼ完全な形で現存。内側から望む。

9) 搦手の守り

- ①本丸搦手土塁=一部が現存。かつて道路の先まで?
- ②空堀、堀底道=水濠で本丸を囲みたいところだが、伝承は道路という。現在、保育所裏側は通行不能だが、その先小学校裏に土塁が散見でき、土塁、空堀=堀底道と考えられる。
- ③堀切空堀、搦手門跡? バス通り、県道鶴舞牛久線はかつて両側が急ガケの尾根地で少なくとも水濠の後面とおよそ1.00m先の2か所に堀切があった。先の堀切は断崖が切り立ち、切口跡もくっきり。時間なく省略。堀切には土橋または木橋、門、門番所などが置かれ、戦時は搦手の防御最前線となる。

10) 武家屋敷の郭

- ①公民館から先、バス通り両側の商店街、住宅地、畑地一帯の字北1~5番小路、南1~5番小路が武家屋敷の中心街になる。かつて街角ブロックごとに土塁を囲み、戦時は武家屋敷がそのまま独立した軍事拠点とできるように都市計画された。土塁が各所に現存しているので注意しながら進もう。
- ②春日井梅鶯の家=人気浪曲師の生家。「南部坂涙の別れ」がヒット。春日井家は旧藩士ではない。
- ③湯川家=鶴舞藩士で代々侍医を勤めた上級家臣。子孫の古い洋風開業医院の面影が残る。
- ④久保田家=鶴舞藩下級藩士の家。維新後、鶴舞を離れた藩士邸を購入、邸地を広めた。離れは現存武家屋敷。トタン葺きの下にワラ葺き屋根。およそ15坪、土間と1室。武家屋敷は整地作業は本人、家作は官費。質素なものだった。鶴舞藩の家臣は700人、家族を含めた人口は3,000人におよんだ。彼らは仮藩邸をおいた長南町周辺の村々に分宿、鶴舞城の1日も早い完成を待っていた。かつての浜松城時代とは比較できないとはいえず独立した家を拝領したことに安堵の念を抱いたことだろう。参考=明治3年民部省統計。華族4(知事一家男1、女3)、士族1,200、卒族1,900、平民59,000

11) 大手門と町屋

- ①大手天朝門跡。門形式は不詳だが冠木門程度? 門番所が置かれた。周辺を通称大手という。
- ②大手門を挟んで北側が武家地で南側は町家。原野に1日にして完成した城下町。町方戸数100戸。
- ③町人は武家地に立ち入らず大手門前を左折して迂回した。参考=過疎化する村。鶴舞村人口推移 明治7年=戸数627、人口3,126、県内第8位。明治19年=戸数271、人口1,275、県内第39位。



鶴舞神社  
落校跡



→南の丸から展望



←本丸跡 ↑本丸水濠



←本丸土塁 →大手門跡



←大井戸の椎 →武家屋敷



1 2) 家老伏谷如水(前出)邸跡

- ①藩主に継ぐ重臣であり、当初は2の丸あたりに居住したのではないかと推定される。現在も子孫が1帯を所有。裏側は急ガケの断崖絶壁になっている
- ②戦前、旧藩主井上正直の孫正義氏が居住されたが病死。戦争が激しくなって本土決戦が叫ばれたころ、首都防衛のためご北兵団1万人が駐屯、師団長の石川孝三郎中将の官舎となった。

1 3) 鶴舞公民館(再=昼食)

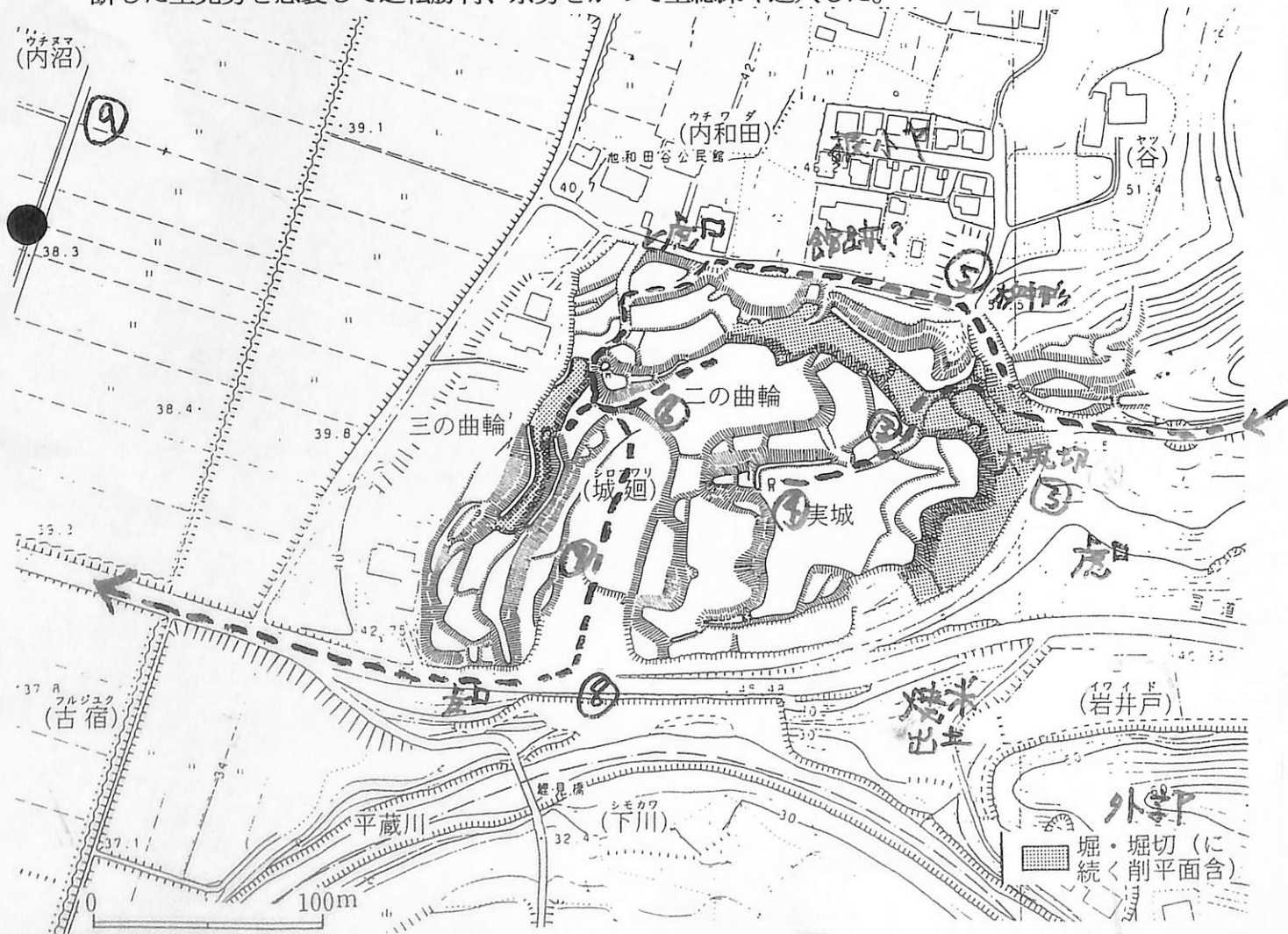
1 4) 伏谷如水と清水次郎長の出会い

- ①伏谷如水=浜松、鶴舞井上藩家老。550石。慶応4年、佐幕、勤皇両派の対立が続く中、勤皇を藩論に統一。藩の勤皇誓書に署名、提出した。先鋒総督軍を出迎え、鉄砲隊など400人を指揮して随従、井上藩の鶴舞転封に従って市原に移住、維新後定住した。明治22年没。72才。
- ②清水次郎長=幕末期の俠客。大政、小政、石松などの子分を従えた街道一の親分として浪曲、講談でお馴染み。慶応4年総督府判事の伏谷が駿河を統括したとき次郎長に帯刀を許して手先とし、街道警備を命じた。伏谷との出会いを契機に博徒の親分稼業から生まれ変わった次郎長は社会事業に数えきれないほどの業績を残すことになった。明治26年没。74才。
- ④清水市の次郎長を知る会と市原との交流=郷土史研究家塚原茂さんらの橋渡しで子孫同志などの交流がはじまり、両市のバス研修会交歓などが行なわれている。

池和田城 (市原市池和田字城廻、内和田)

1) 池和田合戦で落城 (池和田城の歴史)

- ①鎌倉時代和田氏が池和田館居住とされるが判然としない。
- ②池和田城は16世紀戦国後期中世城郭。里見方武田氏の支城で城主は多賀氏。武田氏の動員動員兵力は斥南、勝見あわせて千5百騎。  
多賀氏 — 忠高 — 高好 — 高明(蔵人) — 忠郡(内膳=舟木に逃れる) — 信繁 — 隆信
- ③天文7年(1538)里見方として小田原後北条氏との第1次国府台合戦に出陣するが敗走。
- ④永禄7年(1564)第2次国府台合戦と池和田合戦  
1月、里見氏と北条氏は関東の覇権をかけて国府台で再戦。里見勢は初戦に勝利するが北条勢は油断した里見勢を急襲して逆転勝利、余勢をかって上総深く進入した。



池和田城も包囲され5月7日(2月中旬ともいう)内応者の放火で落城。『小田原北条記』『里見軍記』に登場、地元にも伝承や、城址の焼米、焼土、城主?兜首などが発掘されている。参考=里見方『房総軍記』は激戦100日、北条方『鎌倉管領九代記』は合戦は1日1夜としている。

- ⑤落城で廃城。多賀氏の子孫は本流、傍流など数家が続けている。
- ⑥国府台合戦の勝敗は以後の関東勢力図を大きく塗り替えた。勝者の北条氏は上総を支配下に加えて関東を制し、里見氏は所領の大半を失って安房にさがり、のち北条氏の傘下に。

2) 保存状態は良いがわかりにくい城 (池和田城の構造)

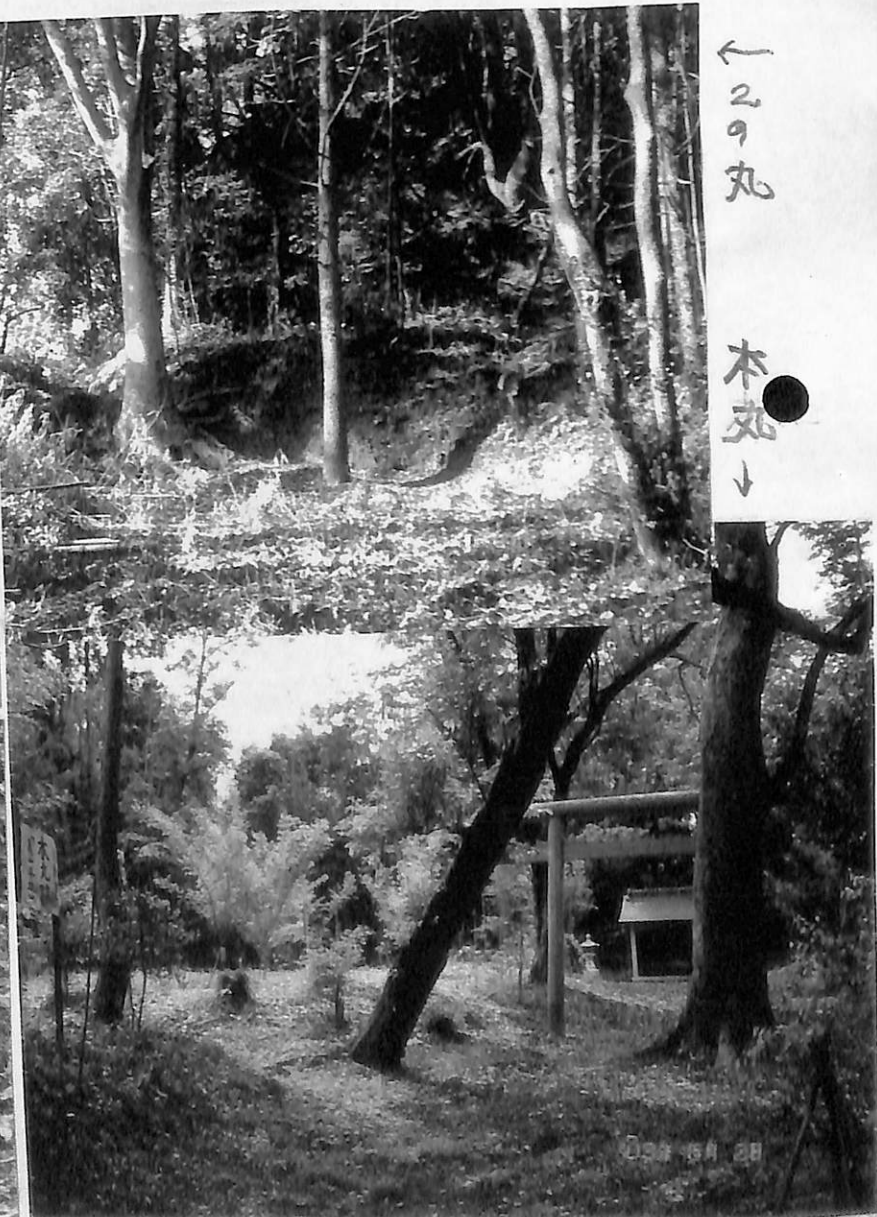
- ①南面を平蔵川と絶壁、西面を沼地、残る2面を山地に囲まれた天然の要塞。自然立地を最大限に活用した城。中世中後期の特徴を示す。
- ②桐木台(のちの鶴舞城)に連なる丘陵地を大堀切によって切断。その構成は主郭(本丸)、II郭(2の丸南側、北側、要害)、III郭(3の丸)、腰郭、内和田(大手郭)からなる。比高およそ30mの丘陵。
- ③大堀切、空堀、土塁、櫓、土橋、虎口、水源などの遺構が現存する。
- ④平蔵川添いに国道297号線と鶴舞連絡道路建設で城郭の一部が取壊され、3の丸の宅地化なども進んだが、遺構が精度よく保存されている。
- ⑤御園生進さんの城址整備=本丸、2の丸の一部などの地主でもある御園生さんの献身的なご努力で蘇った城。荒れ放題だった城地、城道を整備、城址を訪れる人たちも増えている。雑林、竹林を伐採、除草などの管理、整備。城主子孫や地元鶴舞小学校生徒による桜樹、梅樹の植樹、天神社の整備、案内板の設置などなど。ご努力に敬意を表します。ご都合つければご紹介も。

3) 2の丸から本丸へ

- ①大堀切=尾根を堀切って搦手の守りとした。地形は大きく替わったが桐木台側、下方平蔵川近くに大堀切跡原形が現存している。
- ②城主多賀氏子孫、45代多賀正弘氏(長柄町在住)植樹の桜
- ③腰郭=搦手側をめぐる2段の長い腰郭。帯郭はない?
- ④空堀跡=大きく本丸周囲に回す。深さは数メートル?
- ⑤水源=井戸跡?現在、5つほど水源が確認できる。
- ⑥2の丸からの城路=空堀土塁を廻ったものと考えられる。



↑池和田城と  
町田生進さん(左)



- 4) 本丸
  - ①鳥がはばたくような形をした台地。およそ4,000㎡。詰め城。戦時用小建築、蔵など。東側半分は絶景のポイント。個人所有地のため立ち入りは？ 前面は急崖に囲まれ攻撃は困難。東側先端に急坂土塁。堀切。
  - ②天神社=多賀氏信仰。池和田城守り神。落城後も祠が引き続いたらしい
  - ③土塁=本丸築城のため削りとられた残土は押し出して土塁を築く。
  - ④先端の小郭=櫓台？見張り、のろし連絡？(大変危険です。充分ご注意ください)
  - ⑤永禄7年の池和田合戦では、北条勢は2の丸から本丸への虎口を攻めのぼり落城。城主以下多くの戦死者をだした。本丸下平蔵川近くで焼米を出土。数多い城跡の中でも実際に戦い、落城した城は少ない。
- 5) 内和田をのぞむ
  - ①山側は谷津地
  - ②大手郭？3の丸？ 根古屋(家臣住居)、館跡。住宅地右奥に大手門跡。所々に土塁跡、空堀？(水濠？)跡が現存している。
- 6) 2の丸
  - ①本丸崖下に位置し、北郭、南郭、要害の3区、あわせて8,000㎡ある。遺構の保存状態は良いが竹林が密生し立ち入りは難しい。
  - ②虎口=3の丸、内和田との通路。櫓と空堀に挟まれ攻撃しにくい。
  - ③櫓(山王さま=八坂神社)=明らかに人の手がかえられている。物見兼防御施設か？
  - ④土塁、土橋？=下は腰郭と空堀、本丸への土橋？
  - ⑤空堀、土塁=3の丸と2の丸の間の防御施設
  - ⑥3の丸(外郭)=下の住宅地が3の丸。およそ4,000㎡。
- 7) 要害(住宅地)
  - ①通称ユウゲ(要害の変化)。自然の地形を利用した谷地。
  - ②城中の要害はとくに戦闘機能の高い地区をいう。誘いこんで周囲から弓矢を。
- 8) 国道297号線
  - ①新しい道路。建設のため城地の一部が削られた。かつては急斜面で平蔵川に続いた。この部分は川までが城地
  - ②川近くに焼米焼土、虎口跡などが発見されている。

北条軍に攻められた古戦場  
池和田城址は市原市池和田字城廻にある。小湊線鶴舞駅の東方約七百メートル。国道二九七号線から分かれて鶴舞町に登っていく分岐点の近くの台地がそれで、土塁や空濠のあとが残っている。

本丸あとの南側は急崖で、下方には養老川の支流の平蔵川(別名田尾川)が曲りくねっている。この川を越え、城址より一、二キロ南方の田尾字陣馬台に、陣馬台岩のあとがある。これは北条氏が池和田城を攻めたとき急いで構えた岩のあとだ、といわれる。

池和田城は、鎌倉時代に、相模の豪族三浦氏の一族だった和田太郎正治が、初めて築いたものといわれている。地名のおこりも、和田氏によるとのことである。

戦国時代には多賀氏の居城で、多賀氏は里見義堯に属していた。

天文七年(一五三八)十月、第一次国府台合戦のとき、池和田城主多賀藏人高明は里見義堯の部将として、小弓公方足利義明に属して出陣したが、義明が惨敗し、里見氏は撤退している。高明も撤退したのであろう。

永禄七年(一五六三)一月の第二次国府台合戦にも、高明は里見氏に従って出陣したが、このときも敗れて帰っている。勝ちに乗じた北条軍は、余勢をかって上総の地に攻めこみ、池和田城も攻撃を受けた。

『房総里見軍記』によると、北条氏政が一万余騎をひきいて押し寄せたが、池和田城の西北、南の方は深田で、馬ではどうすることもできないし、東の方は高台で、土を掘って要害としているので、ここからは攻めがたかった。氏政は命令を下し、人夫数百人を動員し、附近の民家をうちこわしてこの堀切の埋草とした。山上から矢を射こませ、柵をうち破って攻めこませた。

だが、城将多賀藏人高明と弟の兵衛佐高や

応援にかけつけていた正木大膳亮、その家来奥田平左衛門らは、あの手この手で防衛したので、攻撃軍は死傷者を統出して、なかなか城をおとせなかった。

ところが、城内に相州生まれの吉山七郎太郎というものがいて、主人の多賀氏に対してなにか恨みを抱いていた。いつも「時節が来たら返り忠して恨みをはらそう」と思っていたので、今こそ好機到来だ、とばかり、北条勢のなかに矢文を射こんだ。

「深夜に城内に火を放つから、それを合図に一挙に攻めこんでくるように！」

と知らせ、たしかに深夜に城中に放火した。城内は混乱し、北条軍はそくそくと押し寄せた。城兵は奮戦するが、攻撃軍はつぎつぎに城内に突入し、やがて城は陥落した。永禄七年五月九日のことだったが、このとき誰かの手で、城外に、

正木にてゆひたる桶の多賀切れて  
水もたまらぬ池の和田かな  
と書いた立て札が建てられた、という。

池和田城の落ちたのち、多賀藏人高明と弟の兵衛佐高がどのような運命をたどったのか、諸説があつてはつきりしないが、『房総軍記』には、多賀藏人と正木大膳亮が、池和田城を攻め返して、城を奪回したことを話している。息も寄せぬところから不意に攻めこみ、息もつかせず一挙に攻め立てた。二人とも前回の恥をそそごとと必死になつたので、北条の城兵はささえきれなくなり、みな城から逃げだしていった。多賀と正木は城に入つてたてこもつた。このとき何者かが、

正木にてゆひたる桶の多賀強く  
水も濡らさぬ池の和田かな  
という高札を立てた、ということである。

「ヤシは外」205から  
府馬清先生著

- 9) 内沼、外沼と音信山光明寺(天台宗)
  - ①現在はタンボだがかつて沼地。天然の濠で西側から攻撃はできない。
  - ②周囲に漆房、白(城)の前、矢田など城に関係した小字名が残っている。
  - ③光明寺=永観元年、市原の高滝村で創建、変遷をへて現在地へ。慶安2年、3代将軍家光が寺領15石を寄進。古色蒼然とした名刹。中世石塔(池和田城との関係不明)、旗本600石小倉吉次の墓。池和田城出城。寺内に物見、土塁、空堀などが現存。旗本小倉家も陣屋に？
- 10) 兜首と姫塚——平蔵川の落城悲話(雀ヶ崎城遠望)
  - ①兜首の発見=昭和35年、橋工事の時、戦時下に供出のため伐採された古松の切り株根本に絡みついた兜首が出土。雀ヶ崎城への退路で、敗走の途中、自害した大将首を従者が埋め、目印に小松を移した？当時、兜を着用した武士は少なく城主多賀藏人の兜首説も有力。
  - ②姫塚=多賀一族の姫らも落ち延びるが平蔵川をこせない。風にそよぐとうもろこしの葉音を敵勢と勘違いして自害。以後地元ではとうもろこしを植えない。
- 11) 鶴舞駅(解散)
  - ①関東駅百選の碑=大正14年開業の駅舎。当時の姿を残し、平成10年「関東駅百選」に選ばれた。
  - ②鶴舞発電所跡碑=五井一里見間に小湊鉄道が開通した大正14年、文明開化の光りともいべき電燈が沿線の各駅舎に灯った。ジーゼルエンジンによる火力発電で75Kwを発電、昭和2年近隣10か村、2,200戸に電力を供給した。

以上



平蔵川

↑兜首出土地

光明寺

→ 姫塚跡

池和田城址は市原市池和田字城廻にある。小湊線鶴舞駅の東方約七百メートル。国道二九七号線から分かれて鶴舞町に登っていく分岐点の近くの台地がそれで、土塁や空濠のあとが残っている。

城と史跡を歩く会「鶴舞城と池和田城を歩く」ALBUM

第23回=平成15年6月5日

主要コース

鶴舞城(藩校克明館跡、鶴舞神社、2の丸高台、本丸水濠、本丸土塁、本丸跡、搦手の守り、武家屋敷、大手門跡、伏谷如水邸跡)  
池和田城(本丸、天神社、物見跡、内和田、2の丸、要害、落城悲話)、平蔵川、関東の駅百選鶴舞駅

参加者 44名(あいうえお順=敬称略)

石井洋子、板垣てる、稲葉ミツ子、市原京子、井上勝枝、猪野春枝、今井勝昭、岩村ユウ、卯月富子、小北絢士、荻田恵子、小野芳樹、金子昭夫、金子幸子、神林俊夫、神林良雄、桑原絹枝、笹島稔、白土貞子、鈴木クニ子、鈴木淳子、鈴木満、高城正雄、高城富子、竹内克、武見敏治、千葉範子、続木暉、続木順子、富永利克、富永玲子、中村節子、伴野久美子、藤田康雄、堀口妙子、松川綾子、山田恵美、若菜幾世、渡辺清枝、山岸弘明、小出惣治、高沢恒子、鷺津寛子、藪本テイ子

今後の予定(平成15年下期のスケジュールを参照ください)

- 第24回\*7月6日(日曜日)=夏期研修会(八幡公民館)
- 第25回\*9月16日(火曜日)=護国寺と江戸川周辺を歩く
- 第26回\*10月8日(水曜日)=深川に江戸を歩く
- 第27回\*11月9日(日曜日)=白河小峰城と二本松城、奥州城を歩くバスツアー(特別企画=9月16日受付開始)
- 第28回\*12月6日(土曜日)=鎌倉の朝比奈切通しと釈迦堂口を歩く



↑鶴舞城本丸跡前



←大手 ↑現存武家屋敷



↑地元佐久間町会長さんと



↑武家屋敷内



↑藩校克明館跡



↑2の丸高台土塁



↑鶴舞神社



↑平蔵川



↑2の丸と↑本丸 ↓池和田城跡

**鶴舞城** 1年経たぬ城

井上家  
 ①正統 15代井上氏家系  
 ②正徳 15代井上氏家系  
 ③正徳 15代井上氏家系

井上家  
 ①正統 15代井上氏家系  
 ②正徳 15代井上氏家系  
 ③正徳 15代井上氏家系

4-11 虎子 虎子 虎子  
 6年 虎子 虎子 虎子

鶴舞城は工事には未完で終了  
 築城工事  
 幕府支給 1万8千両+1.2°石 3年可  
 実際 明22年~23年 5万1千両(1.2°石)  
 3年~4年 3万3千両(1.2°石)



城と史跡を歩く会\*平成15年9月16日(火曜日=予備日17日)

第25回「護国寺と江戸川周辺を歩く」

往路=八幡宿8時09分、蘇我16分着、36分発(京葉線快速、前の方)新木場9時16分着(有楽町線)護国寺10時着、改札口集合  
復路=江戸川橋16時30分、新木場、蘇我経由、八幡宿18時ころ着

- 主なコースと見どころ(最初のJR切符=八幡宿(円)新木場)
- ①豊島が岡御陵=江戸後期、5代将軍綱吉ゆかりの護持院跡。「生類哀れみの令」を薦めた隆光の寺だが明治維新に廃寺。いま宮内庁所管の皇室御陵で宮家、旧皇族が眠る。非公開。正門から雰囲気だけ遠望。
  - ②護国寺=徳川将軍家祈願寺。天和2年、綱吉の生母桂昌院の発願により創建、綱吉のお成り続く。本堂など元禄の香り高い重要文化財いまに。総門=元禄時代建造。5万石クラス大名門。将軍家帰依の格式物語る。仁王門=元禄ころ。極彩色。左右に金剛力士阿吽像が寺を守る。本堂=元禄10年将軍家の権威と財力を結集。7間1戸、雄大にして華麗。月光殿=大津三井寺からの移築。桃山時代の寺院建築様式を伝える。大師堂、鐘楼、薬師堂、重文など指定文化財多い。明治元勳の墓=三条実美、山県有朋、大隈重信らが並ぶ。松江松平家の墓=茶人大名不昧侯、治郷の五輪塔は葵ご紋およそ4m。
  - ③清土鬼子母神出現所=子育ての神。仏像を洗ったという星の井戸。
  - ④かかん坂=大名屋敷と矢場に挟まれた坂。昔、きつね、たぬきも出た。
  - ⑤京カテドラル大聖堂=カトリックの東京大司教区教会。日本建築界の第一人者丹下健三が設計。外装のステンレス、スチールがさん然と輝く。
  - ⑥蕉雨園、田中光顕邸=明治30年建造、目白御殿ともうたわれた豪邸。
  - ⑦新江戸川公園、細川邸跡=御三卿徳川清水家、熊本細川邸などを変遷した大名下屋敷庭園。地形を生かした池泉回遊式庭園で、台地からやり水を流して低地に池を配している。松聲閣は明治20年建造の細川家勉強所。
  - ⑧関口芭蕉庵=江戸中期の俳人松尾芭蕉が延宝の3年間居住した庵跡。
  - ⑨椿山荘=久留里黒田藩下屋敷を明治10年、山県有朋が大改修。起伏ある自然を利用、和洋折中の山県好みという。
  - ⑩神田上水=家康の江戸入り直後に作られたわが国最初の上水道。
  - ⑪関口大堰=上水道の堰を作って、御三家水戸邸後楽園をへて市中に水道を。
- 城と史跡を歩く会 問合わせとご案内=0436-42-2237 山岸弘明



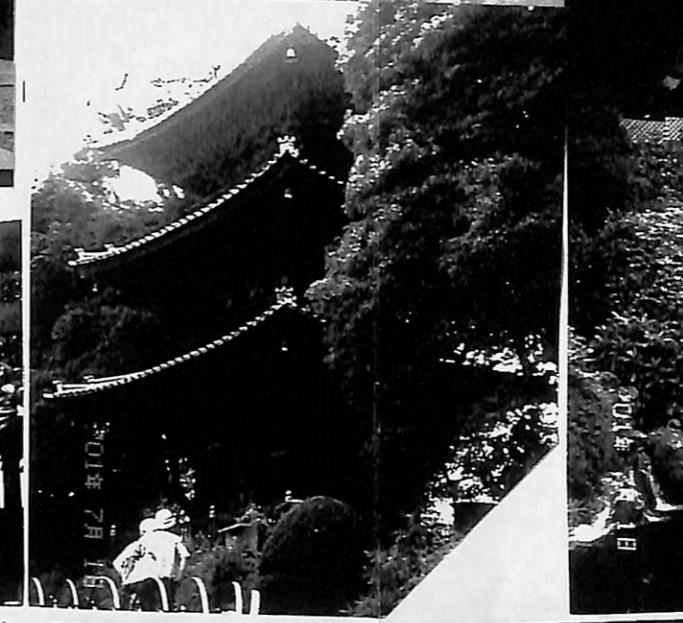
↑↓護国寺 三条実美の墓→



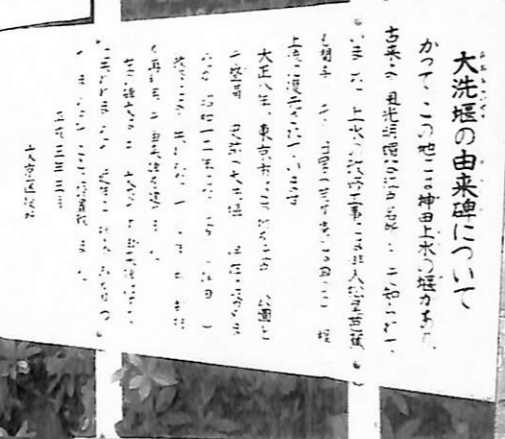
↓松声閣



←椿山荘 ↑↓



関口上水端にある芭蕉庵と椿山 江戸川の上流で、いまもここに芭蕉庵はある。椿山はいま料亭椿山荘で庵はそこに保存されている



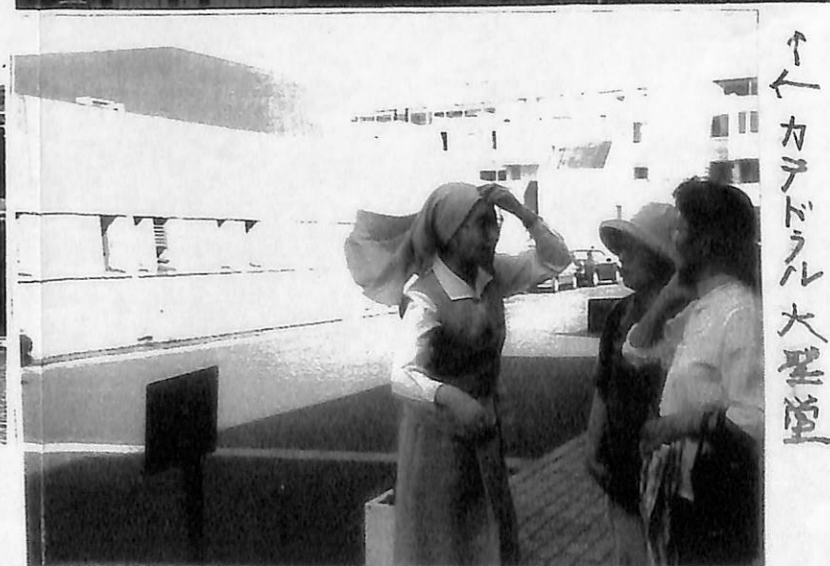
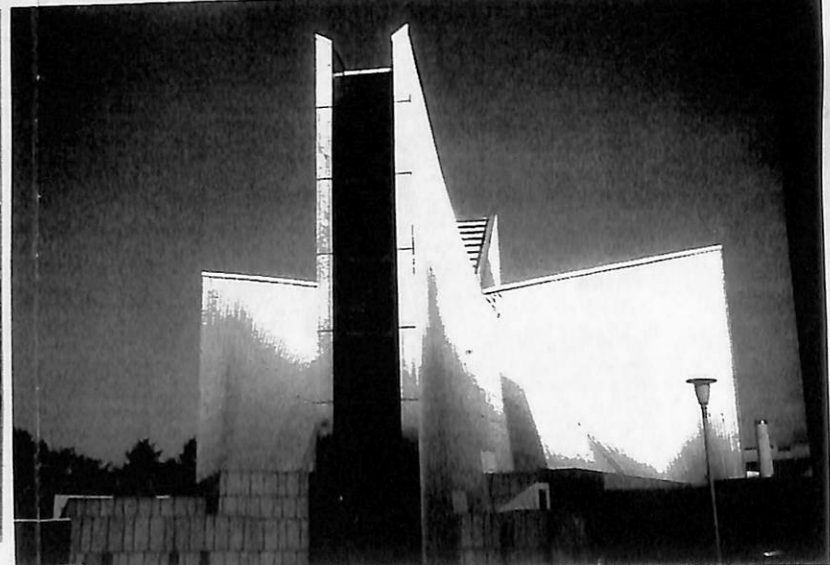
大洗世寺  
←新江戸川公園  
↓芭蕉庵



鬼子母神屋の井戸



旧神田上水



↑カテドラル大聖堂